

給付型奨学金が進路選択に与える影響の推定*

1250396 生田結萌

指導教員 矢内勇生

研究背景

日本学生支援機構は2017年度に給付型奨学金制度を開始した。その後2020年度より受給対象が住民税非課税世帯とそれに準ずる世帯の学ぶ意欲のある学生となり、制度は拡充された。奨学金の支給は進学に必要な資金がない生徒の支払い能力を高めるため、大学進学を促すと考えられる。一方で、大学への進学を断念する要因として金銭面以外の問題があり、奨学金の支給によっては大学進学は促されないという考え方もある。このように、奨学金が大学進学に与える影響については明確ではない。

研究目的

給付型奨学金の支給によって進学意思に影響を与えたのかを分析することで、進学を断念する要因は金銭的な問題なのか、金銭面以外での問題なのかを明らかにする。

研究方法

2018年度から2021年度の高校生の進路希望、個人の特性、ならびに家計の特性を含んだ個票データを用いて、差分の差分法によって2020年度に拡充された給付型奨学金が進路選択に与える効果を推定する。

分析結果

親の教育熱心度や学力を考慮した分析を行った結果、いずれも95%信頼区間は0を跨いでいた。よって、有意水準5%で統計的に有意な差ではなかった。本稿の分析では給付型奨学金が進路選択に与える影響を確認できなかった。

結論

給付型奨学金が進路選択に与える影響を見つけることはできなかった。今回扱ったデータは、標本の生徒が教育熱心な家庭に偏っている、あるいは日本学生支援機構の給付型奨学金の存在を知らないなどの可能性がある。今後、標本に偏りのないデータを用いて再度分析を行う必要がある。

* 本研究は指導教員である矢内勇生先生、研究室のメンバー、研究室の卒業生の協力と高知工科大学の先生方のご指導のもとで完成に至りました。特に、矢内勇生先生には執筆にあたり多大なるご指導を賜りました。誠にありがとうございます。また、本稿では二次分析に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター SSJ データアーカイブから「子どもの生活と学びに関する親子調査 Wave1~7, 2015-2021」(ベネッセ教育総合研究所)の個票データの提供を受けました。心より御礼申し上げます。